

政治学概論 II 2024 w4 (1 月 22 日) リーディングアサインメント：

前田健太郎「日本政治の二つの見方」(『女性のいない民主主義』)

氏名	Q1	Q2
岩田	「つまり、日本では、男性優位主義的なジェンダー規範が強く、それによって女性候補者が不利になっているとも考えられる。」(p.172)	選挙において、投票する際に性別で選別するということを日本人は無意識に（または意識的に）行っているということに対して、違和感を感じたから。確かに、日本は性別役割分業意識が根強く残っているため、男性が政治を行うという固定概念があるのかもしれない。しかし、私たちの世代の人が投票する際には、性別ではなく人柄を重視しているように感じる。p171 で「第一に、有権者の多くは政策についての知識や意見を欠いており、政治家のパーソナリティや、政党への親近感など、政策に関係のない要素に基づいて投票する傾向がある。」と述べられているように、近年は人柄を重視する傾向にあると考えるが、性別も人柄も政治に関係のない要素であるため、よりの確な判断のできる形での選挙を促す必要があると考える。
宇名手	女性議員の少なさと日本の風潮 (P.170～P.173)	女性議員が少ない要因として、歴史的に男性が政治の中心であったこと、そもそも女性立候補者が少ないということに加え、日本の有権者による女性議員・候補者に対する偏見などもあることについて興味を持った。また、有権者自身の性別に関係なく、男性候補者に優先的に投票する傾向があるということについて面白いと感じた。
遠藤	男女格差の原因は子どものころから始まっているということところが重要だと思った。p.176	日本の政治の男女格差について、そもそも女性の立候補が少ないことが原因の一つとして挙げられているが、その背景にはジェンダー規範の問題があり、子どものころから男性優位主義的なジェンダー規範が植えつけられないようにしていかなければならないと感じたから。やはり教育の場で女性がリーダーシップを発揮したり選挙に立候補したりすることを当然としていく必要があると感じたから。
大石	男女の政治家を志すかどうかの意欲の差について (p 176、p 177)	日本はよく海外と比較され、ジェンダーが進んでいないといわれる。この現状について私は日本の大きな問題として重要視している。一方いつも選挙に関するグラフは、これだけジェンダーが騒がれていても劇的に女性の登用が増えることはなく、疑問に思っていた。その中で今回の資料から男女での意欲に注目した内容があり、なるほどと納得した。このようになった原因としては、やはり小さいころからの家族の発言があると思う。家族の中で祖父・祖母は子どもに絶大な影響を与えるが、その世代は戦争前後の男主体の社会である。世代を超えた発言が日本社会の変革にブレーキをかけていると言えるかと考察した。
大久保	投票におけるジェンダー (p167-173)	日本の総選挙の男女別投票率を見て、1946 年から 60 年代中頃までは男性の方が投票率が高かったが、これ以降はほぼ同率になっているというのは逆に面白いなと感じた。しかしながら、そもそも女性が立候補する人が少なく男性優位のジェンダー規範を強く内面化されているのは何だか切ないと感じた。話は変わるが、参議院で同様にデータを集めると今回の総選挙のような傾向があるのかと思った。

(continued)

氏名	Q1	Q2
片山	P173 女性の候補者が少ないことにある。	そもそも、女性の候補者数が少ないなら、ジェンダー規範とか関係なしに、女性の政治家が少ないのは当然だと思う。しかし、クォーター制のような、強制的に女性議員の数を主権者の意思関係なしに増やすのは、民主主義の否定だと思うので、かなり難しい問題だと思う。個人的には、全議員女性だろうが男性だろうが、正直働いてくれればどちらでも良いと思っているが、そもそも、立候補の段階から、格差はあってはいけないと思うので、この解決方法を考えることは重要だとも思う。
加藤	p163 の女性議員の少ない日本では、男性有権者と女性有権者の意見が分かれる項目では、女性有権者の意見は代表されにくく、意見の言いにくさから日本の女性議員の影響力は数に比べて少なくなること。	ただでさえ女性議員が少ない構造にあるにもかかわらず、そのことでより女性議員の影響力が減少してしまうという負の連鎖が課題だと感じたからである。さらに、記事を読んで女性は政治に向いていないという偏見や女性らしさというジェンダーギャップが政治に強く関連していて、改善が必要な点だと考えたからである。
加藤	p163 の女性議員の少ない日本では、男性有権者と女性有権者の意見が分かれる項目では、女性有権者の意見は代表されにくく、意見の言いにくさから日本の女性議員の影響力は数に比べて少なくなること。	ただでさえ女性議員が少ない構造にあるにもかかわらず、そのことでより女性議員の影響力が減少してしまうという負の連鎖が課題だと感じたからである。さらに、女性は政治に向いていないという偏見や女性らしさというジェンダーギャップが政治に強く関連しており、改善が必要な点だと考えたからである。また、政治に限らず女性の管理職割合が少ないことも、育児や家事といった性別的役割の期待などのジェンダーギャップが関連しており、社会の課題を示していると考えたからである。
黒田	投票とジェンダー	日本は、有権者の投票率に関しては男女格差が無いのに、先進国における女性議員の割合が最も低い理由は、人々の中に潜在している男性優位的なジェンダー規範が強く、その結果自然と男性の候補者を選ぶ人が多いという事実に納得したからである。しかしながら、女性も1度選挙に出れば男性と互角に戦えるというデータもあり、女性が積極的に選挙に出馬できるような偏見のない世界になればいいなと思った。
小松原（健）	176	女性の公選職の立候補の少なさは、日本特有のものであると思っていたが、アメリカの社会調査によって女性の立候補者の数が少ないということを知り驚いた。私は、女性差別は勿論存在すると思うが、このような結果をもたらすのは男性が狩りに行くというような、人間の古代からの風習が残っているのではないかと感じた。しかし、現代は古代とは違うので、そのような風習があったとしても、それは変えていく必要があると思う。
小松原（暖）	161	今回の文献で、面白いと感じた点は男女で政策の立ち位置が異なっている点である。文献では防衛力の強化が例として挙げられているが、このような現象はジェンダーの性格の違いなどが影響しているのではないかと考えた。国の方針である政策を検討する際、男性中心の会議では考え方に偏りが生じることが懸念されることから、女性の政界進出などは多様・多角的な思考を政策に取り入れるといった視点からも重要であると考えた。

(continued)

氏名	Q1	Q2
高橋	女性が選挙に立候補していないことこそが、日本において女性議員が少ないことの決定的な原因なのであるという箇所が重要だと思った。(p.174)	その理由は、女性候補者が極めて少ない背景には日本におけるジェンダー規範が未だ根強く残っていることが深く関係しているからである。具体的には第一に政治家を志す女性が少ない問題の原因には「政治家は男性になる職業だ」や「政治家になる女性は女らしくない」といった固定観念がまだまだ存在していることが挙げられる。第二に選挙活動を通じた有権者との接触が女性候補者にとって不利に作用する原因には「男性は仕事、女性は家庭」という性別役割分業の考え方や家庭が今もなお非常に多いことが実態として考えられる。
田辺	男女の政策志向の違いがあったこと、p162	雇用機会の確保といった男女の社会的差異を是正するための政策に対しては、男女差があると思っていた。しかし、p162の調査結果を見て思ったよりも男女に政策志向の差があることを知ったから。なかでも、女性において⑩「永住外国人の地方参政権を認めるべきだ」を賛成する割合が多く、なぜこのような傾向にあるのか疑問を感じた。
爲石（康）	マドンナブーム	近年、世間で実施されている男女共同参画社会の代表であると感じたのがマドンナブームである。政治の世界に女性が参加するのは男女平等という点で素晴らしいと思うが、近年元タレントなどの実績が伴っていないのにも関わらず内閣にいる議員もいるためそこあたりに興味がある。
西田	「議員は性別に関わりなく能力に基づいて選ばれるべきだとする批判が行われるのはもちろん、女性は政治に向いていないという偏見も根強い。」(163 頁)	この箇所が印象に残った理由は、文章が矛盾していると感じたからだ。議員が性別に関係なく、その人の能力に基づいて選ばれるのならば、女性は男性と同じく平等に議員として選ばれる可能性がある。しかし、それと同時に女性が男性よりも政治に向いていないという偏見があるのなら、議員として選ばれる際に男性の方が女性よりも有利になるため、女性は男性に比べて不平等な状況下にあるといえる。このような状況は、男性議員が多い限り変わらないと考える。なぜなら、男性議員にとって選ばれる可能性が高いことは有利であったり、女性を下に見る考え方も自分たちにとっては村ではなかったりするからだ。このようなことから、矛盾や不平等が生じていても改善しにくいと感じた。
野田	日本の政治界に女性候補が少ないことの原因を、政党が彼女たちをリクルートしてこなかった原因から探る必要があるという指摘。(13 ページ)	日本の政界に女性が少ないというのは多くの人々に認識されている課題であるが、それを世界の問題と同じ視点で原因を探ろうとする考え方は危険だという指摘はとても面白いと思った。なぜ日本の政党が女性候補をリクルートしてこなかったのか考えると、男尊女卑の考え方があるのかもしれないと思ったが、これもまた、女性に対するバイアスとして認識できるため、違った視点での思考が必要なのだろう。
原田	男性議員と女性議員の政策の違い	男性の政治家の立場は男性の有権者の立場に近く、女性の政治家の立場は女性の有権者の立場に近いという政治家と有権者の性別は互いに近い立場になるということが分かり面白かったから。また、政治家が男性ばかりである間には女性議員の能力という論点すら上がってこなかったという部分では、片方に偏ってしまったがゆえにもう片方の論点がそもそも浮き上がってこないということは政治家や性別の話に関わらずあり得る話であると感じた。

(continued)

氏名	Q1	Q2
藤井	選挙立候補者に女性が少ない点 (P. 174)	当選する女性議員が少ないのはそもそも女性の候補者が少ないからであり、ジェンダー平等を推進するなら、女性が立候補したくなる、女性が立候補できる環境をまずは整える必要があるのではないかという考えを持ったため、洗濯した。現在、男性議員が多数を占め政治が行われている状況下では、有権者と政治家の双方で男性の賛成する割合が女性に比べて高いため、女性がより関心のもつ政治的動向は少なくなってしまうかもしれない。しかし、そのような状況を打開し、植え付けられたジェンダー規範を塗り替えていく政治的動向が求められていると考えた。
藤田	男性議員と女性議員の政策の違い (p 159 – 165)	私に取り上げた箇所には男性議員の意見は男性有権者にちかいものが多く、女性議員の意見は女性議員に近いものが多いということが書かれていた。このように女性議員が少ない日本では女性の意見が通りづらい傾向にある。女性視点から見る社会と男性視点で見る社会は違うこともたくさんあると思う。しかし、すぐに女性議員を増やせと言っても簡単にできることではない。そのため、男性は普段から女性の意見に丁寧に耳を傾ける姿勢を持ち続けることが大切であると考え、この部分が大切であると考えた。
本間	クリティカル・マス理論には不十分な点があるという議論 p164	政治家と有権者は、同性かどうかで政策への賛成・反対が分かれるにも関わらず、女性議員が増えたからといって男女の不平等が変化するとは限らないことが不思議であると感じた。また、男女の不平等を解消するためには、単に女性を増やすことやリーダーシップをとれる人でもなく、リーダーシップをとれる女性と限定的であることが面白いと感じた。
松本	p.165 どのような女性が、いかにして男性支配を変えていくのか	今までは女性議員がどれだけいるのかという数で他国と比べて日本を語っているものが多かったため、意外な視点だと感じたから。このような視点を設けることによって投票する国民も一人一人を見分けないといけないという責任が生まれてくるのではないかと感じたため、重要な視点だと感じた。
三島	女性候補者は「女性らしい」振る舞いをすれば政治的な能力に欠けると言われ、政治家としてのリーダーシップを発揮しようとすれば「女性らしさに欠ける」と批判されてしまうこと。(171 ページ)	女性政治家が「女性らしい」振る舞いをすれば政治的能力に欠けると批判され、リーダーシップを発揮しようとすれば「女性らしさに欠ける」と非難される現象は、ダブルバインドと呼ばれる。これは、女性がどのように行動しても批判を受ける状況を指し、政治分野での女性の活躍を阻む要因の一つである。例えば、2017年にカマラ・ハリス上院議員が鋭い質問を行った際、「ヒステリック」と批判された事例がある。このような状況は、女性が政治的リーダーシップを発揮する際の大きな障壁となっていると考える。この問題を解決するためには、ジェンダーステレオタイプを見直し、多様なリーダーシップの在り方を受け入れる社会的な意識改革が必要だと感じた。

(continued)

氏名	Q1	Q2
三井	171 日本人がジェンダー規範を強く内面化しているという部分	近年ジェンダーの問題は大きく取り上げられて女性政治家も増加傾向にある。しかし「女性」とつくだけで期待されたり批判されることがある。政治家としての能力等に声が上がるのではなく、「女性」政治家として女性らしさなどが求められるのはおかしいと思っていたので、171 ページを読んで、ジェンダー規範の内面化、有権者の行動傾向が分かった。最近政治がとても荒れているが、性別など関係なく、日本が良い方向に向かうような政治がされればいいと思います。
渡邊	男性議員と女性議員の政策の違いについて (159 ページ)	1980 年代以前の日本の政治は、恒例の男性政治家が中心となって自民党を支配しており、女性議員が意見を出したとしてもあまり反映されることはなく、女性の社会的地位の向上にも関心が弱かったとあり、これは日本だけではなく、世界にとっても重要な問題であると感じたからである。女性は子育てをしたり、家事をしたりなど教育や福祉などの課題も身近に感じており、どのような部分を変えていくべきなのかというのも理解している人が多いと思うので、男性議員の意見ばかりを尊重するのではなく、経験を積んでいる女性議員の意見も取り入れていくことで、経済などの発展につながるのではないかと考える。